



ふるさとジオ塾通信 第25号

塾生のみなさん、こんにちは。

前回第2回講座は昨年に引き続き、2日間にわたるジオツアーとの合同企画でした。ジオ塾生からは1日目の様似八景コースに15名、2日目の様似山道コースに11名が参加しました。ちなみに参加者総数は、1日目が44名、2日目が34名でした。

両日とも雨予報でありましたが、塾生皆さんの日頃の行いが良かったおかげで、雨に当たることなく、無事に完走することができました。参加された塾生の皆さんお疲れさまでした。



第3～4回講座（6月）のご案内



さて、次回以降2回分の講座のご案内です。第3回講座は野外講座で、フラワーガイド付きのアポイ登山。この時期のアポイ岳はまさに高山植物の花盛りの季節です。どんな花に出会えるか自分の足で歩いて、目で見て堪能しませんか？そして第4回講座はジオサイトをバスで巡る旅を実施します。運別川（現海辺川）の支流、ポロナイ川の水源近くで砂金が発見され、徳川幕府が採掘を開始した「東金山金鉱山跡」や三井物産の森林伐採開発で木材搬出用のため軌道が敷設された当時の名残を見ることができる「三井軌道跡」などを見学します。

第3回講座 野外「アポイ岳」花登山

アポイの花を知りつくしたフラワーガイドが6月の花たちを紹介します。

6/9（日）【アポイ登山】

1. 行程：ビジター～山小屋～馬の背～山頂～馬の背～山小屋～ビジター
2. 日程：集合 7:30 ビジターセンター前／解散 14:00（予定）ビジターセンター前（現地集合願います。）

- ※1 昼食や飲み物を持参してください。
- ※2 歩きやすい服装と靴でご参加ください。
- ※3 塾生及び様似町民以外は参加料 1,500 円が必要です。



アポイ岳でしか見られない高山植物に出会えるかも!?

第4回講座 野外「ジオサイト巡り①」

6/23（日）【東金山金鉱山跡&三井軌道跡ほか（仮称）】

1. 行程：東金山金鉱山～三井軌道跡～ムコロベツ鉱山～日本電工 or イチゴハウス
2. 日程：集合 9:00 中央公民館前／解散 12:00（予定）中央公民館

第3回講座に参加を希望される場合は6/5までに申し込みが必要です。
第4回講座に参加を希望される場合は6/14までに申し込みが必要です。

【様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会 TEL 0146-36-2120】

第2回講座のおさらい

1. 様似八景フットパス (5/11)

様似駅を始点及び終点とする、様似の海岸景勝地を巡る約10kmコースです。

水野ガイドと小林ガイドの2班に分かれてフットパスを歩きながら解説してもらいました。

ツアーメインの観音山では咲き乱れるカタクリやエゾエンゴサクなどの花々を鑑賞。また、中央漁協市場で今が旬のウニの殻むき体験や試食もしました。

様似八景コース ダイジェスト

① 様似海岸の奇岩類の成り立ち

浦河から様似に向かって来て鵜苫を過ぎると、塩釜の大岩や親子岩、ソビウ岩、エンルム岬がほぼ一列に並んでいることがわかります。これらは「ひん岩」と呼ばれる安山岩質の岩脈でできています。約1,700万年前、プレートの運動によって強い力が加わり、この辺りの堆積岩の地層に割れ目ができました。その割れ目に地下深くからのぼってきたマグマが入り込み（貫入）冷えて固まってできた岩石（ひん岩）が、これら奇岩類のもとです。長い年月の間に、海の波の侵食によって、まわりの堆積岩の地層が削られる一方、硬いひん岩だけが取り残され、現在のような形になったと考えられます。



せせらぎ橋で写真を使い様似の語源など説明する水野ガイド

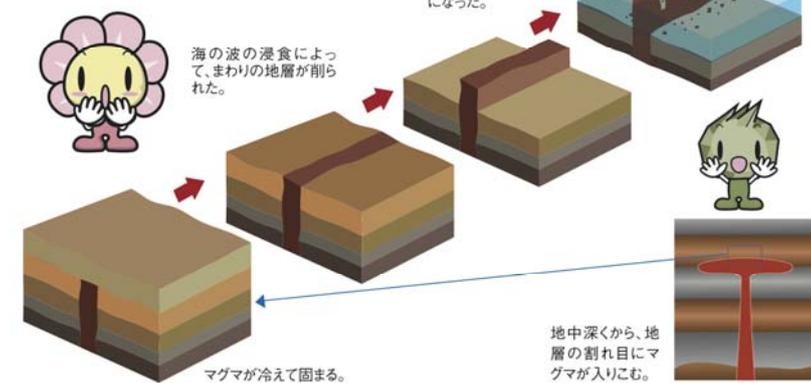


アポイ岳が見える無線局前でアポイ山塊について解説する小林ガイド



観音山ではカタクリの群落が参加者をお出迎え

様似海岸の奇岩類はどうやってできたか



② 親子岩の誕生にまつわるアイヌの伝説

昔むかしの大昔、東の方で戦いに敗けた酋長が家族の身の安全を守るため、まず妻と子供を逃がしました。妻と子供は様似まで逃げてきましたが、とても逃げきれないとあきらめ、子供を抱いたまま海に入り、今のソビウ岩になってしまいました。

妻のあとを追って逃げてきた夫の酋長もこれを見て安心し、自分もその西に並んで海に入って大きな岩になりました。追いかけてきた敵酋長は、この二つの岩を見て

くやしがり、その岩になった酋長めがけてヨモギの矢を放ちました。矢は命中して岩は三つに割れ、それが親子岩（ウンペレブンケ）になりました。

③ローソク岩とオショロコツにまつわるアイヌの伝説

昔むかし、一步の歩幅が数十里という想像もつかないほどの巨大な神様、アイヌラックルがそちこちの国造りをして歩いていました。この巨神が回りまわって様似にきて、塩釜で一休みしました。お腹がすいた巨神は、大きなクジラをチョイとつまみあげ、ヨモギの木を串に刺して焼き始めました。巨神はその火の前に立ちはだかり、手をかざし焼けるのを待っていると、突然串が焼き折れてしまい、クジラはドサッと焚火の上に落ちてしまいました。

それを見た巨神はビックリ仰天、腰を抜かして大地に尻餅をついてしまいました。大きな体に似合わない度胸のない巨神、アイヌラックルだったようで、ローソク岩はこの言い伝えの焼串が岩になったもの、また尻餅の尻の跡は「オショロコツ」と呼ばれ、このくぼ地は、いま塩釜トンネル付近背後にある丘の上に広く印されています。



日高中央市場でウニの殻むきを体験し、ウニを美食！

ホクホクのおやきをがぶり！

2 . 様似山道フットパス (5/12)

2日目は江戸の古道を巡る約7kmコースです。

宅石ガイドと伊與木ガイドの2班に分かれてフットパスを歩きながら花の解説などをしてもらいました。

前日の夕方から降り続いた雨の影響で、足元も心配されましたが、参加者全員が無事に完走しました。

①様似山道と和助のつながり

幕末、東蝦夷地シャマニ地方、1799年に幕府の直営事業として行われた冬島・幌満間の「様似山道」開削中の工事現場に、漁夫の子で南部から来たという一人の若者が住むようになっていた。名前は和助。昆布採りなどしながら山道工事の手伝いをしたり、困っている旅人を宿泊させたりした。

さらに地域の雑事にもみずから進んで協力。いつかその人柄や献身的な姿は工事関係者や地域の人々から絶大な信頼を寄せられるようになった。

和助は地元民として官に協力、非常に重宝がられ、様似山道開削後はその功績により、名字を唱えることが許され、冬島の穴岩から幌満川まで約一里半にわたる地域の実産物の自由採取権や、それに付随する海産干場の自由使用権を与えられた。その権利は1821年（文政4）年、幕府がこの直領を再び松前藩に返地するまで23年間も続いたが、その後立場は一変、権利は没収、和助は追放されることになり、



和助地蔵尊

地域住民は同情して、強く留まることを勧めたが、いつのまにか姿を消している。

1855（安政2）年、幌満が再び幕府直轄地となった時、和助は当地に戻り地元住民の歓迎を受けた。それまでにことを一切語らず、以前と変わらずあらゆる協力を惜しまなかった。こうして世のため人のために生涯を捧げた和助は1862（文久2）年、91歳の天寿をまっとうしている。

死後、和助は地域住民から法外な深謝を受けることになった。生前の功績を称えようと人びとは和助をお地蔵さまとして、和助地蔵尊を建立したのである。以来150余年、地蔵尊は今も大切に守られ、毎年春の彼岸の中日には盛大な慰霊祭が行われている。子供好きだった和助にちなみ、住民の子供の名前でお供えをする風習になっている。

様似山道コースダイジェスト



出発前に伊與木ガイドが準備体操を指導



山道コース出発前に和助地蔵尊で安全祈願



宅石ガイドが第2班を先導



ロープをつたってルランベツ沢を渡る参加者



エゾオオサクラソウが参加者を歓迎



原田宿跡にて参加者全員で記念撮影



アポイ岳ジオパーク

アポイ岳ジオパーク ふるさとジオ塾通信 Vol.25
発行：2013年5月
発行元：〒058-8501 様似郡様似町大通1丁目21
様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局
（様似町役場商工観光課）
電話：0146-36-2120 FAX：0146-36-2662
E-mail：apoi.geopark@festa.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.apoi-geopark.jp/